レポート「囚人の奇病」から

呑く黒痰を喀出す
便所あれど臭気鼻を衝く

今三池労組は、労働条件、職場環境、福利厚生施策を改善するよう、会社に要求している。会社は要求に対してふり向こうともしないが、三池炭鉱のそれがいかにひどい時代離れな実態にあるか、を思い知らせてくれる資料がある。〝法規分類大全監獄の部〟に記録されている「囚人の奇病」（警察監獄学会雑誌第三巻第二号によったもの）と題する報告の次の一節がそれだ。明治二十四年（今から八十七年前）のことである。

熊本県監獄三池出役場（大浦鉱のこと）において出役囚中に一種異様の奇病発生し、去年九月上旬（明治二十四年の）より同十月下旬に至る二ケ月間において、此病症に罹る囚人は実に四十四名の多きに達し、其内弐拾八名は重病なるを以て監獄署（熊本の本監のこと）へ引取り、治療を施し、……然れども三池出役場の位置は海を距る十町の処にある一小丘にして、近囲は卑湿、年々伝染病の流行地なり。

而して囚人の日々出役する炭坑は深きは地下百五、六十間、浅きは数十間にして坑内暗黒なり。故に数千の灯火を用ゆ。其煤煙は洩出するに道なく終に全坑に満し、坑夫は之を呼吸するを以て悉く黒痰を喀出するに至る。

而して駄馬の屎尿は四面の瀝水及び粘土に混和し、又便器の設置ありと雖坑内暗黒なる故之に注意せず、猥りに処々へ両便を発する者ある。其臭気鼻を衝く。

加之気候極めて不同なり。或いは寒冷に堪へざるあり。或いは炎熱に堪へざることあり。即ち蒸気管の通路に接する坑内は炎熱恰も煮るが如し。

以上の事実は健康を害する言はずして明らかなり。

×

記録によりますと熊本県の囚人労働者は、明治九年から同三十五年まで（その間二度だけ本監に帰っている）の二十六年間、三池炭鉱の苦役に出役しています。多いときは四、五百人を数えました。

（編集部）

消費文化にふり回されぬ豊かな生活築く
政治と経済を
職場新聞〝ひびき〟の記事

朝日新聞の「転機の世界秩序」（西川潤・早大教授）によると、自分は中程度の生活をしている、と答える人が九割もいるということである。

自分の家には「車がある」「テレビがある」「冷蔵庫」。そして「今年はクーラーを買うぞ」。

街には耐久消費財のはんらんで国が豊かになった、生活が豊かになった、と消費文化に惑わされてはいないか。

食と住まいには満されぬまま大量の消費財をかかえ込み、毎年少しずつ変わって行く商品の出現にふりまわされ、欲望だけがたえずつくられ、生活の基本が忘れられている。

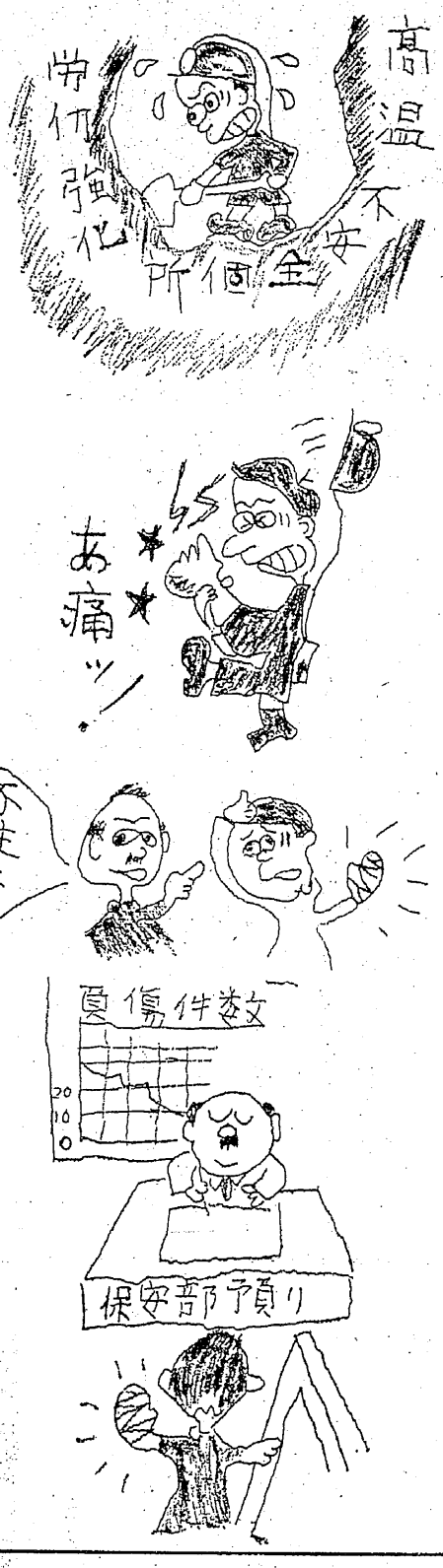
必要に応じ生産し、必要に応じ消費する。自力更生の思想が、中国や北朝鮮では実践されている。成長優先の経済をささえてきたのは各人の消費である以上、まず自分のくらしを見直し、消費優先から、ほんとうに豊かな生活優先の政治経済を指向するのが第一ではないだろうか。

×

四山指導部二分会新聞〝ひびき〟（三月二日発行）から。

湯加減ぐらい自由にしたい

汗とほこりに汚れて昇坑し、ゆっくり重労働の垢を風呂で落とし、温泉とまではいかなくともの



んびり入浴したい浴場が、なんと湯加減ひとつ自由にできないなんて、あきれてものもいえません。

刑務所はどんなか知りませんが、今の時代にコックもついてない浴場があるなんて、思ってもみませんでした。浴槽の湯水ぐらい自由に使えるように、コックを付けておいてもらいたいです。入浴ぐらい、気持よくできるようにしたいものです。

×

三川指導部電気職場の新聞〝交流〟にのったY生筆名の手記。風呂は、もちろん三川鉱の風呂場のことでしょうが……。

負傷者はどこからきてどこへ消えるのか？

職場新聞〝あけぼの〟が誕生

こんど三川指導部の十八分会（南新開竪坑・勝立人事）で〝あけぼの〟という新聞の発刊に成功した。

同紙は「発刊に当たり」との記事で、決意を次のように述べている。

「私達は南新開坑内十五名、勝立人事外特七名、人事一名、有明鉱坑外特一名と、坑内と坑外が一緒になった珍らしい分会であり、有明鉱にまで伸びた点で、三池労組では唯一の分会であります。

今からの一つひとつが、新しい取り組みばかりで、新聞の発行もその一つであり、不十分な面はおいおい改めながら、気取らず、あせらず、一歩一歩回を重ね、題名のごとくあけぼのから夜明けに向かって努力する所存です。皆さんのご意見・助言をいただき共有の宝にしたいと思います」

四山指導部二分会新聞〝ひびき〟から。

▽　△

オレは鳩族の若大将

三川指導部　一組合員

オレは、鳩族の若大将だ。

オレの主人は三川鉱の坑外職場に働く労働者なので、オレ達は毎日住家の選炭場から挨拶に行き、食事にありつく。主人が休みの日は、他の人のせわになったりしている。そのため先日の老雪の休みの日も、ひもじい思いをせずにすんだ。

主人との出会いは一年前だったから、オレの赤ん坊のときのことだった。家を作ってもらって、かわいがられて以来だ。

猫の野郎からねらわれ、数羽の仲間が命を奪われた。オレは危く命拾いをしたが。仲間同志遊んでいるとき突然おそいかかってくる。大変危い。

主人と話しているときなどに、猫にかわって、いきなり自動車や炭函が動きだしては、命からがら逃げだすこともある。

毎日主人や主人の友達と遊んでいるが、この頃不況の風が押し寄せてきたためかめっきり食事が、量も質もおちてきた。昨年は米や麦の食事にありついたが、近頃はトウモロコシが多くなった。それに大豆が少々。ときには、コーリャンまで与えられる。

オレには、彼女ができた。春になり、チューをしてやったら、よろこんで卵を生んだ。彼女ともども、食事の質・量が落ちてきているときどう生きのびて行くか、心配になってくる。そのときは、田舎まで遠出してでもがんばって行こう。

親父もお袋もいるが、どっちも老げてしまい遠出ができなくなったので、何とか主人に食事の改善をやってもらわにゃこまるが、その主人ときたら日曜出勤して、暗くなるまで残業。無理はいいにくく、はたはたこまったもんだ。春闘とかいうやつで賃金を引上げてもらい、オレ達鳩族の待遇改善をやってもらうとするか。

とにかく、頭の痛いことばかりだ。

全逓の仲間の闘いに三池から激励を

京都　稲村守

今年の正月は、たいへんお世話様でした。すっかりお世話になり、生れてこの方一番すばらしい正月を迎えることができました。

さて三池の火は京都にも拡がり組合書記局の前に「安全なくして労働なし。抵抗なくして安全なし」、と大書していた全逓京都地区洛東支部山科分会に、郵政当局と国家権力と一体となった攻撃がかけられてきました。同封の〝全逓きょうと〟〝ヤング洛東〟〝青年の声〟をごらん戴ければわかりますが、昨年末、全逓組合員の脱退希望に対する説得活動を行った過程で「暴力があった」とデッチあげ、そのため組合員が告訴され、強制捜査・逮捕されたものです。五名の仲間は完全黙秘で闘っているところです。

三池に学び、職場で生命と権利を守る闘いをすすめ、社青同・社会党に結集する仲間を数多くつくりだした全逓洛東支部が狙いうちに攻撃されたのです。

ともに闘う三池労組の仲間より、五人に対する激励の電報（手紙）など戴ければ幸いです。

激励先

京都市山科区西野阿芸沢町一の五、山科郵便局内、全逓洛東支部。

同市中京区中京郵便局内、全逓京都地区本部。

×

稲村さんは、今年の正月交流を求めて来組された方で、総評京都のオルグとして活動されています。

全逓中丹支部からカンパが

このほど、全逓京都中丹支部のまなぶ友の会と社青同（責任者＝永田敏夫さん）へ全逓中丹支部長〉京都府福知山市天田長戸、福知山郵便局内）から、多額のカンパが寄せられてきました。

昨年暮れに、「このカンパは三池労組のCO闘争勝利のため行っています。組合員諸氏が書記局へ立寄られた時、たとえ一円でもお願いします」（掲示）と呼びかけたのに対して、寄せられたものだそうです。感謝に耐えません。その旨記して、心からお礼申し上げます。

ありがとうございました。どうか皆さんに、くれぐれもよろしくお伝えください。

記事訂正

本紙前号このページの「四山鉱の坑底から」（片山末吉さん稿）というレポートのなかで、「温度計を見る。五十五度ある」とあったのは「……三十五度……」の誤りでした。深くおわびいたします。

——編集部